

地域文化学科 カリキュラムマップ(日本研究コース科目除く)(2021年度入学生)

次のような知識や能力を備えた学生に学士(地域文化)の学位を授与します。

①異文化理解に必要な外国語(日本語)能力と情報収集力を身につける(技術)
 ②世界や地域に共存する多様な文化について、学際的な見地から理解しようとする見識を身につける(知識)
 ③世界や地域の諸問題に関心をもち、情報収集と分析を通して課題を設定することができる(思考)
 ④日本語と外国語を駆使して異文化交流に積極的に取り組むことができる(意欲)
 ⑤多様性を尊重し、言語・文化を異にする他者と共に生きることができる(態度)
 ⑥国際交流、海外伝道、国際観光、国際スポーツ指導、国際ビジネスなどにおいて「他者への献身」の精神をもって活動することができる(行動)

科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号					
						①	②	③	④	⑤	⑥
地域研究方法論	講義	2	2	地域研究に限らず、人間集団の多種多様な調査に役立つ方法の一つの柱である「フィールドワーク」の基礎手法とマナーを実習を通じて学習する。	1.「フィールドワーク」を身近なものと感じることで、自文化でも異文化でも、一般社会生活に活用できることを知る。 2.「フィールドワーク」を行うことで、当たり前と思っていた「日常生活」の見えざる諸側面を知り、日常を「非日常化」することができるようになる。	○	○	◎			
東アジア地域研究入門	講義	1	2	歴史的見地からは、マカオ・香港・台湾を含めた中国文化圏の概要を理解し、文化的見地からは、そこに共通する食文化や風水思想など暮らしについて学習する。	1.中国文化圏の歴史的・文化的特徴を把握し、その概要について解説できる。 2.中国文化圏の現状を理解し、その諸問題を考察することができる。		◎			○	
東南アジア・オセアニア地域研究入門	講義	1	2	オーストラリア大陸とポリネシア、メラネシア、ミクロネシアの島嶼部からなるオセアニア地域における自然や社会、さらには歴史と文化について概観する。これらの地域の社会や文化の多様性について理解する。	1.オセアニア地域についての基礎的な知識を身につける。 2.特定地域(国、島嶼、文化領域)について興味や関心を持ち、より深く学ぶための素地を作る。		◎	○		○	
ヨーロッパ地域研究入門	講義	1	2	ヨーロッパ地域のことばや文化、地理、歴史などを基礎に、地域研究の学際的アプローチを学ぶ。	地域研究を国際関係と関連づけることにより、異文化の社会を多層的に捉え、環境や観光など現代的諸問題の解決をはかるための基礎とする。	◎	○	○			
アフリカ地域研究入門	講義	1	2	先進国のアフリカ史観を知り、アフリカの歴史を学ぶ。400万年前の猿の誕生から、グローバルな政治や経済に影響を受けながら発展を模索する現代までを対象とする。	1.先進国によるアフリカ史観とともに、日本人のアフリカ史観を知る。 2.歴史を通してアフリカの実像を知り、イメージによるアフリカ理解の問題と危険性を知る。		◎	○		○	
ラテンアメリカ地域研究入門	講義	1	2	ラテンアメリカ地域の地理、歴史、社会、文化に関する基本的な情報を得る。とくに、当該地域の歴史と社会の成り立ちを理解する。	1.ラテンアメリカ地域の社会・文化の成り立ちが説明できるようになる。 2.異なる民族と文化の共存によって成り立つ社会と文化を知ることによって、日本の社会・文化を相対化する視点を養う。		◎	○			
北アメリカ地域研究入門	講義	1	2	現代米国社会のかかえた問題の中でも最も根深い問題、人種問題を考察する。その際に、なぜ今のような形、様子になったかを知るために、その歴史を振り返る。	1.歴史的因果関係を論理的に考察する。 2.アメリカとは何か、アメリカ人とはだれのことかという根源的な問いを考察する。	○	◎	○			
世界の地理	講義	1	2	アジア、アフリカ、ヨーロッパ、日本において自然と深く関わりを持つ民族を取り上げ、自然環境と人間が形成する文化・生活・社会の関係を学ぶ。	1.豊かな自然環境に支えられた人々の文化や社会の多様性と暮らしの知恵を知る。 2.このような人々が現在抱える問題の解決策を探る姿勢を身につける。		○	◎		○	
世界の歴史	講義	1	2	「ヨーロッパ世界の源流」をテーマとして、古代ギリシア・ローマの古典古代世界を学ぶ。その社会・文化の多様性を理解するとともに、キリスト教の成立と発展にも注目し、「ヨーロッパとはなにか」を考える。	1.古代ギリシア・ローマ世界における、民族・言語・国家の枠組みを超えた「ヨーロッパ意識」「ヨーロッパの価値観」を理解し、説明できるようになる。 2.国民国家的な視点ではなくアジア、ヨーロッパといった広い枠組みで歴史をとらえ、その大きな流れを理解し、説明できるようになる。		◎			○	
世界の情勢	講義	1	2	この授業では、グローバル化の時代と言われて久しい現代社会の有機的繋がりについて、理解を深めることを目標とする。例えばシリア内戦の激化と欧州政治の右傾化傾向など、一見かけ離れた事象がどのように関連しているかを学んでいく。	1.世界の情勢について、基本的な知識を身につける 2.様々な事象のつながりについて、自らの知識をもとに考察する能力を身につける 3.新聞等の報道に関心を持ち、批判的に読めるようになる		◎	○			
世界の観光	講義	1	2	18世紀におけるイギリス貴族の子弟のいわば「修学旅行」であったグランドツアーと江戸時代の伊勢参詣を2本の軸として、近代におけるヨーロッパと日本の観光旅行のあり方を比較し、その共通点と相違点を学ぶ。	1.個人による「旅」ではなく、制度として「旅行」が成立してゆくプロセスを理解する。 2.「旅行」という身近な事象を通じて、異文化を比較する視点を身につける。		◎	○		○	
世界のスポーツ文化	講義	1	2	スポーツイベントを題材に、世界の様々なスポーツ文化やスポーツ事情を知り、それについて興味関心・知識を深める。	1.世界の様々なスポーツ文化やスポーツ事情を知り、興味関心を持つ。 2.スポーツを通じた異文化理解の方法を身につける		◎	○			
多文化共生論	講義	2	2	異なる文化や民族との共生は、グローバル化が進んだ現代社会の重要課題の一つである。この授業では、「負の教材」として日本のマイノリティ(アイヌ、沖縄、在日コリアン、日系ブラジル人)が経験した同化の歴史と彼らの豊かな文化について考察する。	1.日本の近代化プロセスと「単一民族神話」の関係を説明することができるようになる。 2.日本に暮らすさまざまなマイノリティが辿ってきた歴史を踏まえ、あるべき多文化共生社会に向けて具体的な提言を発信することができる。		○		○	◎	
スポーツ文化概論	講義	2	2	目的によって4つに分けられた「学校スポーツ」「余暇スポーツ」「一般スポーツ」「チャンピオンズスポーツ」の現状や問題点・課題等について学ぶ。	1.4つに分類されたスポーツの現状や問題点について説明できる。 2.スポーツが人間社会に影響を与える文化的価値を持っていることを理解する。		○	◎			

科 目 名		授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
ディプロマ・ポリシー		<p>次のような知識や能力を備えた学生に学士(地域文化)の学位を授与します。</p> <p>①異文化理解に必要な外国語(日本語)能力と情報収集力を身につける(技術) ②世界や地域に共存する多様な文化について、学際的な見地から理解しようとする見識を身につける(知識) ③世界や地域の諸問題に関心をもち、情報収集と分析を通して課題を設定することができる(思考) ④日本語と外国語を駆使して異文化交流に積極的に取り組むことができる(意欲) ⑤多様性を尊重し、言語・文化を異にする他者と共に生きることが出来る(態度) ⑥国際交流、海外伝道、国際観光、国際スポーツ指導、国際ビジネスなどにおいて「他者への献身」の精神をもって活動することができる(行動)</p>										
スポーツ文化特論		講義	3	2	生涯スポーツとしてのマラソン・ランニングを多面的に学ぶことで、文化としてのマラソンについての基礎的知識を習得する。	1.「文化としてのマラソン」に関心を持ったり、魅力に気が付けるようになる。 2.マラソン実践に必要な知識や技術を身につける。		○			◎	○
アラブ文化概論		講義	3	2	流動的かつ緊迫した政治的状況が続くアラブ世界の情勢を理解するために必要な、アラブ文化・社会に関する基本的知識および視座を修得することを目指す。	1.「アラブ世界」では何が起きているのか、時事問題を把握する。 2.「アラブ」を理解する上でキーワードとなる「アラビア語」「イスラーム」を軸に、同文化に関する基本的な知識・視座を習得する。		○	◎			
異文化実習		実習	1・2・3・4	4	多文化・多言語状況が観察される地域に約2週間滞在しながら、歴史、祭り、食、建築、スポーツ、環境保護、文化交流など、さまざまな実習を通して異文化を存分に体験する。また、現地実習に先立つ座学では、でかける地域の社会や文化について主体的に学ぶ。	1.観光目的のバックツアーでは得難い貴重な異文化体験を通して、当該地域の歴史・文化・社会に対する関心を飛躍的に高めることができる。 2.日本に暮らす外国人への理解が深まり、彼らと積極的に交流しようとする態度を身につけることができる。		○	○	○	◎	
異文化体験活動1		実習	1・2・3・4	1	日本の文化に生で触れる貴重な機会として、学生が自主的に体験活動の内容を企画し、担当教員に相談の上実践する。	1.日本に在住しているからこそ体験できる活動を行う。 2.活動を企画し、報告書としてまとめる能力を養う。						
異文化体験活動2		実習	1・2・3・4	1								
異文化体験活動3		実習	1・2・3・4	1	自主的な異文化体験活動を促進することを目的とする単位認定用科目である。	1.異文化体験の場を求めて飛びこめるようになる。 2.異文化コミュニケーションに抵抗感がなくなる。					◎	○
異文化体験活動4		実習	1・2・3・4	1							◎	○
(生活・表現・社会)文化演習1		演習	3	2	いわゆるゼミとよばれる少人数の演習科目で、卒業論文の作成を最終目的とする。所属する研究コース教員が担当するゼミを履修する。「生活文化」「表現文化」「社会文化」はそれぞれ複数の学問分野を含む学際的な領域を示している。フィールドワーク、アンケート調査などを駆使する主体的な学びの場であり、地域文化学の実践的教育を目的とする。「ナラロジー」は日本研究コースにのみ設置されるゼミである。	1.研究論文を読解できる。 2.文献をまとめてプレゼンできる。 3.関心のあるテーマに関して文献・フィールド調査できる。 4.特定のテーマに関する議論に参加し貢献できる 5.関心のあるテーマに関して独自の意見を形成できる。			◎	○		
(生活・表現・社会)文化演習2		演習	3	2						○	◎	
(生活・表現・社会)文化演習3		演習	4	2							◎	○
(生活・表現・社会)文化演習4		演習	4	2							○	◎
卒業論文			4	4	学部・学科教育の集大成であり、4年間学んできた成果を表現する場である。関心のある対象・テーマに関して、先行研究を踏まえながら、独自の意見を形成し、説得的かつ論理的な論文を作成する能力を養成する。	1.先行研究に関する文献調査ができる。 2.テーマに関するフィールド・アンケート調査ができる。 3.独自の意見を形成できる。 4.意見を論文のルールにしたがって表現できる			◎	○	○	○
アジア・オセアニア研究コース科目	アジア生活文化概論	講義	2	2	現代アジア諸国における観光事業と諸問題について理解する。	アジアにおける観光政策とその成果・問題点を、日本と訪日外客を一例として分析し、改善策を模索できるようになる。		○	○		◎	
	アジア表現文化概論	講義	2	2	青銅器・陶磁器・絵画・書・庭園などの具体的な文化から、中国を中心とした東アジアの文化的特徴を理解し、その底流にある考え方を学ぶ。	1.東アジアの具体的な文化の特徴を解説できる。 2.東アジアが共有する「気」の文化を説明できる		◎			○	
	アジア社会文化概論	講義	2	2	世界遺産に登録された都市・建築を題材にして、中国の東・南(漢族が多く居住する地域)/西・北(少数民族が多く居住する地域)、前者における華北/華南(南船北馬)、伝統的な中国都市/近代に発展した都市、という地域的・文化的多様性を学ぶ。	1.中国の空間的広がり多民族・多文化性を説明できるようになる。 2.伝統中国から現代中国に継承されたものとされなかったものを説明できるようになる。		◎			○	
	アジア地域文化概論	講義	2	2	グローバル化に伴う人々の移動に着目して、主に日本と米国の韓国人社会を題材に移民者によるホスト社会への政治参加を学ぶ。	1.移民者の政治参加がホスト社会にとってどのような意味をもつかを理解できるようになる。 2.移民の先進国である米国の韓国人社会の事例を通じて、日本における定住外国人との共生についての理解を深める。		○			◎	
	オセアニア地域文化概論	講義	2	2	オセアニア(太平洋地域)の歴史と文化について、主に文化人類学の観点より概観する。太平洋の島々の伝統的な社会や文化について知り、異なる文化が出会った時に何が起こるのか考える。	1.オセアニア島嶼部社会の歴史の変遷について基礎的な知識を身につける。 2.同地域の具体的な歴史的事象の理解を通じて、異文化接触や文化変容など、文化についての一般的な理解を深める。		◎				○
	アジア・オセアニアと日本	講義	2	2	近代における日本とアジア・オセアニアの諸国諸地域の関係について理解する。	日本の近代化や戦争をアジア・オセアニア的な視野から捉え、21世紀の日本とアジア・オセアニアのあり方に目を向けるようになることを目標とする。		◎	○			
	アジア地域関係史	講義	2	2	従来の一国史的枠組みにとらわれず、アジアの歴史的展開を複眼的・総体的に把握する。	前近代のアジアにおける地域間交流や異文化認識のあり方を理解し、近代的なアジア像や国家像を相対化することを目標とする。		◎	○			
	アジア生活文化特論	講義	3・4	2	現代大衆文化とその社会・経済的影響力について、日本漫画・アニメの国際進出を例として理解する。	個人の創作活動・国際貿易・各国の文化規範の3側面から事象をとらえ、関連諸産業に必要なスキル・人材も含めて説明できるようになる。		○	○		◎	

ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(地域文化)の学位を授与します。												
		①異文化理解に必要な外国語(日本語)能力と情報収集力を身につける(技術) ②世界や地域に共存する多様な文化について、学際的な見地から理解しようとする見識を身につける(知識) ③世界や地域の諸問題に関心を持ち、情報収集と分析を通して課題を設定することができる(思考) ④日本語と外国語を駆使して異文化交流に積極的に取り組むことができる(意欲) ⑤多様性を尊重し、言語・文化を異にする他者と共に生きることができる(態度) ⑥国際交流、海外伝道、国際観光、国際スポーツ指導、国際ビジネスなどにおいて「他者への献身」の精神をもって活動することができる(行動)												
科 目 名	授業形態	配当年度	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要								
						①	②	③	④	⑤	⑥			
アジア・オセアニア研究コース科目	アジア表現文化特論	講義	3・4	2	雅楽や歌舞伎など日本の伝統的音楽文化の歴史の概要と文化的特徴を理解したうえで、西洋音楽が流入した明治期以降の日本音楽のありかたを学習する。	1.日本の伝統音楽の概要と特徴を説明できる。 2.西洋音楽を受容した明治期の日本音楽のありかたについて一定の知見を得る。		◎					○	
	アジア社会文化特論	講義	3・4	2	近世・近現代を通じて東アジアの国際関係を集中的に表現する都市マカオ(近世アジアにおけるキリスト教布教と国際交易のセンター、1887年以降はポルトガルの海外領土、1999年に中国に返還され、現在は特別行政区)を題材として、16世紀後半から現在にいたる東アジアの国際関係史をたどる。	1.近世から現代にいたる東アジア国際関係史の大筋を説明できるようになる。 2.近代東アジアが抱えていた諸問題を説明できるようになる。			○	◎				
	アジア地域文化特論	講義	3・4	2	アジア諸国は20世紀以降近代的国民国家が建設された過程のなかで社会と文化はどのように創られてきたかを東南アジア(主にタイ)の事例を通じて考える。	1.国家政策及びナショナリズムはいかに国民的文化に影響を及ぼしているかを説明できる。 2.タイのような多民族の社会のなかで少数民族はいかに自分のアイデンティティを創り、守ってきたかを理解できる。			◎	○				
	オセアニア地域文化特論	講義	3・4	2	ハワイの歴史・文化・社会について、主にハワイ人に焦点をあてて概観する。西洋人と接触する以前のハワイの伝統文化、接触後の文化変容やハワイ併合に至る歴史、現代の多民族社会ハワイにおけるハワイ人について考える。	1.身近でありながら良く知られていないハワイとハワイ人の歴史と文化について基礎的な知識を身につける。 2.異なる文化が会合するハワイとその地に住む先住民(ハワイ人)について知ること、文化や民族についての理解を深める。			◎					○
	アジア・オセアニア多文化共生論	講義	3・4	2	東南アジアとオーストラリアの多民族化社会や移民受け入れ政策、及び華僑等のトピックについて学び、同地域の多文化共生社会の現状と課題に関する理解を深める。	アジア・オセアニアにおける多民族化社会とそれともなう多文化共生について学ぶことで、多文化共生に関する概念、現状及び諸問題を説明でき、自分の社会と比較することができる。							◎	○
	アジア・オセアニア現代事情	講義	3・4	2	韓国の首都ソウル市と地方都市を題材にして、持続可能な地域社会の実現という視点から、グローバル化に伴う地域社会の変容をたどることを通じて、地域社会の歴史・社会・文化を理解し、住民による自発的な地域づくりの取り組みを学ぶ。	1.韓国における地方自治の展開に伴う行政と住民との協働関係のありかたを説明できるようになる。 2.東アジアにおける地域社会の多様性と諸問題について理解できるようになる。			○	◎				
ヨーロッパ・アフリカ研究コース科目	ヨーロッパ生活文化概論	講義	2	2	ヨーロッパ人の日常生活と行動様式に深く浸透しているキリスト教の影響を確認すると同時に、彼らがキリスト教の負の遺産をいかに踏襲してきたか、また克服してきたかを考察する。	1.キリスト教についての基礎知識を得る。 2.キリスト教精神の浸透度を確認する。 3.異端審問に始まるその負の遺産を把握する。 4.ヨーロッパ人の差別意識に触れる。			◎	○				○
	ヨーロッパ表現文化概論	講義	2	2	主に英国の社会や文化について理解を深める。欧米文化を移入した近代以降の日本の状況と比較しながら、主にシェイクスピアにおけるジェンダー、階級、人種、帝国などの主題の変遷を学習する。	1.シェイクスピアの芝居を文章と映像で理解する。 2.主に図像文化の観点からヨーロッパ文化とそれを移入した近代日本の文化的社会的背景を理解する。			○	◎				○
	ヨーロッパ社会文化概論	講義	2	2	授業の主題:現在のドイツは、9つもの国々と陸続きの国境をもち、これらの隣接諸国とのさまざまな「交流」がドイツの歴史をつくりあげてきた。このドイツの歴史を7つの時代に分け、「ヨーロッパのなかのドイツ」という視点から、それぞれの時代の基本的要素と主要な論点を学ぶ。	1.ドイツの歴史を学ぶということは、隣接諸国、たとえばフランス、ポーランド・スイスなどの歴史を学ぶということでもあるという点を理解し、説明できるようになる。 2.一千年以上にわたるドイツの歴史の大きな流れを通観することによって、現在のドイツ、さらにはヨーロッパにたいする関心と理解をさらに深めることができる。			◎	○				
	スラヴ地域文化概論	講義	2	2	ロシア正教古儀式派教徒がかつて居住した満洲や現在居住している北米・ウクライナ等を舞台に、独自の信仰を持った人々が異文化の環境の中で、いかにその独自性を守りながら、同時に彼らを取り囲む社会と調和しながら生きていくための様々な試みについて理解できるようにする。	1.ロシア正教古儀式派とはどのような宗派か説明できるようにする。 2.異文化環境下での異文化との接触・衝突について理解できるようにする。 3.多文化社会の中での自文化と伝統を守りながら生きていくための様々な試みについて理解できるようにする。			◎	○				○
	アフリカ地域文化概論	講義	2	2	ヨーロッパとのつながりという視点から、アフリカの歴史を概観した上で、現代のアフリカ社会やその多様な文化の諸相を見ていく。とくにコンゴとフランスの関係を軸として、今日に続くアフリカとヨーロッパのつながりについて考察する。	1.アフリカとヨーロッパの繋がりを理解する。 2.アフリカの生活・文化を通して、現代アフリカ社会が抱える問題を認識する。 3.今日に見るアフリカのさまざまな事象に対して、歴史的観点や国際関係の視点から読み解くことができる。			○	◎				
	ヨーロッパ・アフリカと日本	講義	2	2	幕末から明治時代初頭に來日した「お雇い外国人」の活動を辿ることを通じて、日本人による西洋建築や西洋絵画・彫刻の受容と外国人による日本の建築・美術・工芸の受容を比較し、その異同を確認することで異文化交流の実態を知る。	1.日本人と欧米人の西洋建築についての考え方のちがいを知る。 2.日本人が捨てようとした伝統美術が外国人によって救われた過程を知る。 3.外国人による芸術理解が日本人の理解よりも正当である場合があることを知り、異文化交流の意義を学ぶ。			◎	○				○
	ヨーロッパ・アフリカ関係史	講義	2	2	今日の多文化社会を準備したヨーロッパ・アフリカ関係史を学ぶ。おもに、フランスと海外領土の再編、ヨーロッパ統合・拡大とその後の現代史を踏づけ、現代社会のコロナ禍遺産をめぐる諸問題を考察する。	1.現代における多文化社会の来歴をヨーロッパとアフリカの関係史のなかに学ぶ。 2.多文化社会の課題を語れるようになる。			◎	○				○

ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(地域文化)の学位を授与します。												
		①異文化理解に必要な外国語(日本語)能力と情報収集力を身につける(技術) ②世界や地域に共存する多様な文化について、学際的な見地から理解しようとする見識を身につける(知識) ③世界や地域の諸問題に関心をもち、情報収集と分析を通して課題を設定することができる(思考) ④日本語と外国語を駆使して異文化交流に積極的に取り組むことができる(意欲) ⑤多様性を尊重し、言語・文化を異にする他者と共に生きることができる(態度) ⑥国際交流、海外伝道、国際観光、国際スポーツ指導、国際ビジネスなどにおいて「他者への献身」の精神をもって活動することができる(行動)												
科 目 名	授業形態	配当年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号								
						①	②	③	④	⑤	⑥			
ヨーロッパ・アフリカ研究コース科目	ヨーロッパ生活文化特論	講義	3・4	2	18世紀のフランス絶対王政下において、家庭内トランプの絶対的解決策として、身内の監禁を国王に願ひ出る請願書を解説することにより、当時のパリ市民の生活実態に迫る。	1.庶民の請願書に始まり、国王から監禁命令が発令されるまでの政治的なプロセスを理解する。 2.数多くない資料から各事件の全体を推理し、その概要を把握する。		○	◎					
	ヨーロッパ表現文化特論	講義	3・4	2	ヨーロッパで最大の領土を持つロシアとそれに次ぐウクライナ。複雑な関係を保ち続ける両国の文化について主に文学を通して理解を深めながら、ロシアとウクライナの関係について考察する。	1.ロシアの成立過程におけるウクライナの位置づけについて知る。 2.ロシア・ウクライナ文学史の概要を把握する。 3.現在の両国の関係について説明できるようになる。		○	◎					
	ヨーロッパ社会文化特論	講義	3・4	2	ロシアを中心とした東ヨーロッパの近代史を主に政治史、経済史の観点から通観し、後発地域の近代化のあり方について、ヨーロッパや日本の事例もひきながら考察する。	1.高校で習った世界史の一部について知識を整理し、より深い理解が得られるようになる。 2.東欧における近代化の特徴について、おおよその理解が得られるようになる。 3.近代社会とはどのような過程を経て産み出されたのか、ロシアの事例を通じて理解できるようになる。			◎			○		
	スラヴ地域文化特論	講義	3・4	2	主に旧ソ連地域の社会や文化について理解を深める。ソ連という単一システムに約70年間あったこれらの地域の過去と現在について学習する。	1.ソ連解体前後の動きを理解する。 2.ソ連解体後の旧ソ連地域の状況と世界秩序との関係について把握する。			◎	○				
	アフリカ地域文化特論	講義	3・4	2	アフリカで活躍する日本人を紹介しながら、アフリカの抱える問題について知る。問題の背景を政治、経済、歴史、文化などから探る。	1.アフリカが抱える問題の背景について多角的に知る。 2.日本人活動家と活動内容について知り、問題解決の探り方を学ぶ。			○	◎			○	
	ヨーロッパ多文化共生論	講義	3・4	2	少数民族、外国人、移民、難民、LGBTなどに焦点を当てながら、ヨーロッパ各国や、「多様性の中の統一」を理念に掲げるEUの、多文化共生をめざした取り組みを紹介し、問題の所在を探る。	1.人の移動と領土の変更が激しかったヨーロッパにおける多文化共生の具体的な試みを自分の言葉で評価することができる。 2.多文化化が進む日本社会を担っていくひとりとして、ヨーロッパの事例から、あるべき多文化共生の姿について具体的な提案を行なうことができる。			○	○			◎	
	ヨーロッパ・アフリカ現代事情	講義	3・4	2	「戦争の世紀」であった20世紀以降のヨーロッパ現代史を、「多民族・多文化の共生」という観点から概観する。現代史の太い流れを掴むことによって、ヨーロッパが現在抱えている諸課題やそれに対する取り組みへの理解も深めたい。	1.ナチスの人種政策の二面性と現代性を説明できるようになる。 2.第二次大戦、冷戦、ブラハの春、東欧革命、旧ユーゴ内戦とおおして、非常時に果たすメディアの役割についても説明できるようになる。			○	◎				
アメリカ研究コース科目	ラテンアメリカ生活文化概論	講義	2	2	ラテンアメリカにおける生活文化を理解するうえで不可欠な基盤となるカトリックに注目し、ヨーロッパにおける発祥と展開、征服期におけるラテンアメリカへの移植、植民地期から現代にかけてのシンクレティズムの形成についての知識を涵養する。	1.カトリックの教義と世界観についての理解を深める。 2.精神的征服という観点からラテンアメリカ史を再検討する。 3.具体的な事例をつづじて文化変容という現象について考える。			◎	○				
	ラテンアメリカ表現文化概論	講義	2	2	ラテンアメリカ地域の社会と文化の成り立ちを、支配者・被支配者の関係に着目して理解する。その上で、被支配的地位に置かれた人びとの主体を表現する文化とその政治性について考察する。	1.多民族の共存や文化の多様性が孕む政治性を説明できるようになる。 2.社会における主流の価値観を批判的に読み解く能力を養うことができる。			○	◎				
	ラテンアメリカ社会文化概論	講義	2	2	現代ラテンアメリカ社会にみられる様々なコミュニティについて学ぶ。国や地域の多様性とそれらを生み出すグローバルな力学を知ることで、現代社会を創造的に生きるための視点を身につける。	1.コミュニティの形成について社会科学的に説明できるようになる。 2.不均衡に形成されたラテンアメリカ社会という矛盾に抗う民衆の姿について説明できるようになる。			◎	○			○	
	北アメリカ地域文化概論	講義	2	2	アメリカ文化の特徴を歴史的な背景を強調しながら説明する。19世紀末の新メディア(映画、ストーリー漫画、レコード)を紹介し、20世紀のアメリカ文化の世界への普及の概要を理解させる。	受講生にとって親しみのもてるアメリカのポピュラー文化をより客観的に理解できる。			◎	○				
	アメリカ研究概論	講義	2	2	アメリカという国家の思想的基盤を概観し、アメリカがラテンアメリカとどのように関わってきたかを学ぶ。それらの学習を通してアメリカとは何かと考察する。	1.アメリカの建国理念を学ぶ。 2.アメリカがラテンアメリカをどのように捉え、どのように扱ってきたかを学ぶ。 3.第2次世界大戦時にアメリカ世界の日系人をアメリカ政府がどのように扱ったかを学ぶ。		○	○	◎				
	アメリカと日本	講義	2	2	グローバル化が進化する世界で、身近になってきたラテンアメリカからの輸入農畜水産物等について、歴史的な経緯を含めて現状を理解できるようになる。特に第二次世界大戦後は、主として両者間の経済関係が盛んになり、その中で、近年、EPA/FTAが注目され、活発化してきて、その状況について理解できるようになる。	1.グローバル化する現代社会を生きる人々が日々食べている食について考えることができるようになる。 2.社会科学的な視点から食を説明できるようになる。			◎	○				
	大西洋地域関係史	講義	2	2	ラテンアメリカ史を学ぶ。日本の歴史学における伝統的区分である「日・東・西」のはざまで、被支配地域としての西米洋史の片隅に押し込まれてきた同地域の豊かな歴史を学ぶことで、われわれの歴史観を相対化する契機とする。	1.社会科学的歴史学の意味(不条理から理不尽へ)を説明できるようになる。 2.グローバル化する現代社会を近代史の延長線として説明できるようになる。			◎	○				

科 目 名		授業形態	配当年度	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号							
							①	②	③	④	⑤	⑥		
ディプロマ・ポリシー		<p>次のような知識や能力を備えた学生に学士(地域文化)の学位を授与します。</p> <p>①異文化理解に必要な外国語(日本語)能力と情報収集力を身につける(技術)</p> <p>②世界や地域に共存する多様な文化について、学際的な見地から理解しようとする見識を身につける(知識)</p> <p>③世界や地域の諸問題に関心を持ち、情報収集と分析を通して課題を設定することができる(思考)</p> <p>④日本語と外国語を駆使して異文化交流に積極的に取り組むことができる(意欲)</p> <p>⑤多様性を尊重し、言語・文化を異にする他者と共に生きることができる(態度)</p> <p>⑥国際交流、海外伝道、国際観光、国際スポーツ指導、国際ビジネスなどにおいて「他者への献身」の精神をもって活動することができる(行動)</p>												
アメリカス研究コース科目	ラテンアメリカ生活文化特論	講義	3・4	2	近代に翻弄されつつ現在まで生きつづけているマヤ系先住民の歴史的主体性に光をあて、アメリカス世界の重層的な歴史を「向こう岸」から眺める。	1.被支配民族の歴史的主体性を尊重する視点を習得する。 2.異文化において不合理に思える行動のなかに合理性を見いだせるようになる。			○		◎			
	ラテンアメリカ表現文化特論	講義	3・4	2	ラテンアメリカ現代事情を学ぶ。ラテンアメリカにおいて、資本のグローバル化に抵抗するもう一つのグローバル化の主体としてのマルチチュードの潜在的可能性について理解できるようになる。同地域の新たな動きを学ぶことで、先進国一辺倒の情報から漏れがちな同地域の市井の人々の取り組みに光を当てる契機を身につける。	1.グローバル化する現代社会をマルチチュードの側から説明できるようになる。 2.社会科学視座からラテンアメリカのマルチチュードを考えるようになる。		◎	○					
	ラテンアメリカ社会文化特論	講義	3・4	2	この授業では、ラテンアメリカという20か国以上を有する地域の多様性と共通性について学ぶことを目的とする。そのため共通の歴史を概観した後、固有の現代的テーマを取り上げ、事象が起きた背景を学んでいく。	1.ラテンアメリカに共通の歴史的背景を理解できるようにする。 2.背景を同じくしながら、どのような差異を持つていたかについて、事象を追いながら考察する能力を身につける。 3.日本で報道されるラテンアメリカニュースを、批判的に読み解けるようになる。	◎					○		
	北アメリカ地域文化特論	講義	3・4	2	現代アメリカ合衆国の生活様式に関連する経済的、政治的、社会的諸問題を学ぶ。特にアメリカ社会の土台となる消費社会が20世紀後半まで及ぼした影響を紹介しながら今後の消費社会の行方も検討する。	1.現代アメリカ社会を社会的に解説できる。 2.現代日本社会との共通点や相違点を識別できる。			○	◎				
	アメリカス研究特論	講義	3・4	2	制度の進化と制御に着目する進化経済学と、市場原理主義の経済を相対化する経済人類学の視野から、アメリカス世界の様々な具体的事例を学び、持続可能な経済社会成立の可能性を探る。	1.グローバルな経済社会を景気循環、金融、法制度、リスク管理など、多面的に捉える複眼的思考を習得する。 2.持続可能な経済社会とはの考察を通じて、自分はこう考えたと主体的な発信力を身につける。			○	◎				
	アメリカス多文化共生論	講義	3・4	2	アメリカ合衆国を「多元文化社会」「移民国家」「多民族国家」と呼ばれる理由とその特徴的な意味について紹介しながら、アメリカ合衆国の歴史と現在を「エスニック・アメリカ」として学習する。	アメリカ合衆国に於ける数多くのエスニック集団を存続する仕組みと諸問題を説明できる。			○			◎		
	アメリカス現代事情	講義	3・4	2	受講生にとって親しみのもてるアメリカ文化ではあるが、実際には多様な側面がある。新聞記事を講読することでアメリカのさまざまな現実を知ることで、アメリカ理解を相対化する。	1.英文記事の概要を理解しようとする姿勢をもてるようになる。 2.アメリカの現実を多様な観点から理解する。	◎	○						
地域言語(韓国・朝鮮語、中国語、タイ語、インドネシア語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、ブラジルポルトガル語)	基礎科目	各地域言語 [※] A1	演習	1	2	各言語の初歩的な文字や音に慣れし、当該言語を用いて最小限の挨拶、自己表現、および相手とのコミュニケーションが可能となるようになる。強化科目へスムーズに移行できるようになる。	1.挨拶ができる。 2.言語に特有の文字・音を習得する。 3.日常生活に必須の表現ができる。 4.最小限の文法項目を用いることができる。	◎			○	○		
		各地域言語 [※] A2	演習	1	2			◎			○	○		
		各地域言語 [※] B1	演習	1	2			◎			○	○		
		各地域言語 [※] B2	演習	1	2			◎			○	○		
	強化科目	各地域言語 [※] C1	演習	2	1	基礎科目で習得した知識をさらに確かなものとし、これまで学んだヒアリングや自己表現の幅を広げるとともに、簡単な講読および作文能力を身につけることができる。検定試験の基礎的なレベルに対応することができる。	1.基礎科目を敷衍した挨拶ができる。 2.基礎科目を敷衍した会話表現ができる。 3.簡単な講読ができる。 4.簡単な作文ができる。 5.留学準備(試験等)に対応できる。	◎			○	○		
		各地域言語 [※] C2	演習	2	1			◎			○	○		
		各地域言語 [※] D1	演習	2	1			◎			○	○		
		各地域言語 [※] D2	演習	2	1			◎			○	○		
		各地域言語 [※] 演習	演習	2	1	これまでに学んできた各言語についての多様な知識を深めるのはもちろんのこと、コミュニケーションのきっかけや手段として各言語圏における言語文化についての基礎的な知識(たとえば、文学、映画、音楽や、またはマンガに代表されるようなポップカルチャー等)を身につけることができる。	1.当該言語圏の多くの人々が知っているような文化を代表する人物や作品等の知識を得ることができる。 2.これまで学んだ言語知識のレベルアップに加えて、多様な状況で用いられている当該言語(たとえば、メニュー、歌詞、ポスター、地図、時刻表等)を学習できる。			○		◎	○	
		各地域言語 [※] 海外語学単位認定科目	演習	2・3・4	1 ~ 16	実践的なコミュニケーション能力(ヒアリング・スピーキング)とともに、応用的な講読・作文能力を身につけることができる。	1.会話や作文で、自分自身や日本社会を十分に説明できる。 2.会話や講読で、相手のことや当該地域の情報を十分に得ることができる。 3.自分で計画を立てて、当該地域を旅行することができる。	○				◎		

※各地域言語は、韓国・朝鮮語、中国語、タイ語、インドネシア語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、ブラジルポルトガル語